練馬区立旭町小学校　学校だより　特別号　令和８年10月30日発行　校長　分部　光一

きらめく風

すすんで学ぶ子ども　心ゆたかな子ども　体をきたえる子ども

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。６年生の学力調査結果についてまとめましたのでご報告します。

令和8年度　6年生　全国学力・学習状況調査結果（令和8年4月23日実施）

1　国語　　**平均正答率（%）**　　**＊網掛けは東京都平均を上回った項目です。**

	国語全体	知識及び技能		思考力、判断力、表現力等		
		言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
旭町小	66	72.3	54.5	71.5	52.7	71.8
東京都	65	70.4	56.7	70	50.4	68.8
全　国	60.9	66.8	52.3	65.8	45.7	65.9

知識及び技能「情報の扱い方に関する事項」では、「考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができるかどうかをみる」設問の正答率が、41.8%と都平均よりも約10ポイント低い結果でした。表やグラフ等から情報を読み取ったり、その情報を正しく理解しているかを確認したりする学習を重点的に扱っていきます。

思考力、判断力、表現力等「書くこと」では、「引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」設問の正答率が、都平均よりは高いものの40.0%と低い結果でした。自分の考えを明確にすること、その考えの根拠を明確にすること、引用をする際に気を付けることなど、学習理解が深まるようにスモールステップで指導をしたり、個に応じた学習になるようにICT機器を使ったりして、記述して回答する力を向上させていきます。

2　算数　　**平均正答率（%）**　　**＊網掛けは東京都平均を上回った項目です。**

	算数全体	学習指導要領の領域				
		A　数と計算	B　図形	C　測定	C　変化と関係	Dデータの活用
旭町小	67	73.4	73.6	80	52.1	58.6
東京都	63	68	63.4	82.9	49.9	53.9
全　国	56.4	61.1	55.3	78.1	41.1	48.6

「A数と計算」では、「異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述することができるかどうかをみる」設問の正答率が45.5%と低い結果でした。改めて通分や約分を復習するとともに、数や言葉を使って自分の考えを記述して説明をする学習を重点的に扱います。

「Ｃ変化と関係」では、「単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できるかどうかをみる」設問の正答率が、都平均よりは高いものの47.3%と低い結果でした。単位量当たりの大きさを求める際に、もとの数量や比べる数量を把握できるように、問題文からキーワードを見付けて立式したり、言葉で説明したりする学習を重点的に扱います。さらに、ペアや小グループ学習において自分の考えや答えを伝え合う場面を増やすなど、指導方法の工夫を図ります。

３ 児童質問紙

質問紙では「朝食を毎朝食べていますか」「毎日同じ時刻に寝ていますか」等の生活習慣に関する質問や「将来の夢や目標をもっていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」のような自己肯定感に関する質問、学校の学習や友達に関係する質問等、計７３個の質問に回答しました。

東京都平均との比較で約１０ポイント近い差があり、特徴的だった結果についてお伝えします。

（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合%）

質問項目	本校	東京都
学校に行くのは楽しいと思いますか。	100	85.5

東京都比で14.5ポイント高い結果であるとともに、肯定的な回答が100%でした。これは友達関係を含む人間関係が比較的良好であること、学校行事や学級活動を含む教育活動が子供たちに適していることが考えられます。また、担任をはじめ、専科の教員や講師が、いかに児童のよさを認め、励ましているかが分かる結果であると考えます。これからも、個性豊かな児童一人一人への適切な指導と支援を継続し、引き続き、楽しい学校生活を過ごせるように、全力で教育活動に取り組んでまいります。

質問項目	本校	東京都
自分には、よいところがありますか。	78.9	86

子供たち一人一人が、自己肯定感や自己有用感を感じられるように、家庭と学校でお子さんを認めていきます。ご家庭では、お子さんを褒めたり認めたりする声掛けをお願いします。学校では、全教育活動を通して、具体的な行動を褒めたり、思いやりの心を認めたり、時には叱ったりして、お子さんの成長のために大きな愛情をもって育てていきます。

質問項目	本校	東京都
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。	51.9	71.3

約20ポイントの差がありました。差が大きかったため追調査を行いました。初回調査では、学校の大人にいつでも相談できると回答した子供は51.9%でしたが、その理由の多くが「悩みがないから」という理由であったことが判明しました（追調査ではいつでも相談できるが78.9%に増加）。また、困りごとや不安の解決方法として、保護者や友達に相談して自分なりの解決方法を見いだしていると回答したお子さんもいました。一方、先生や学校にいる大人への相談をためらうお子さんもいます。スクールカウンセラーや心のふれあい相談員の活用方法を周知するなど、一人一人に寄り添いながら、安心して相談できる環境づくりを進めていきます。

４ 全体的な特徴と課題について

授業で課題の解決に向けて主体的に取り組む児童が高い割合を示しています（80.7%）。また、話合いを通じて互いの意見のよさを生かして解決方法を決めたり（92.3%）、さらに、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることができています（90.4%）。この特徴が示すように「主体的・対話的で深い学び」が定着していると考えられます。

一方で、自分の課題に合わせた学習展開への満足度は（80.8%）と高いものの、情報活用能力におけるアウトプット能力「ＩＣＴ機器を使って情報を整理する（図や表、グラフ等を使ってまもとめる）ことができる」（67.3%）「ＩＣＴ機器を使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができる」（75%）が低い傾向にあることが分かりました。あらゆる教育活動の中に情報活用能力育成の機会を設け、学んだことを活用したり、応用したりする力の育成に取り組んでいきます。